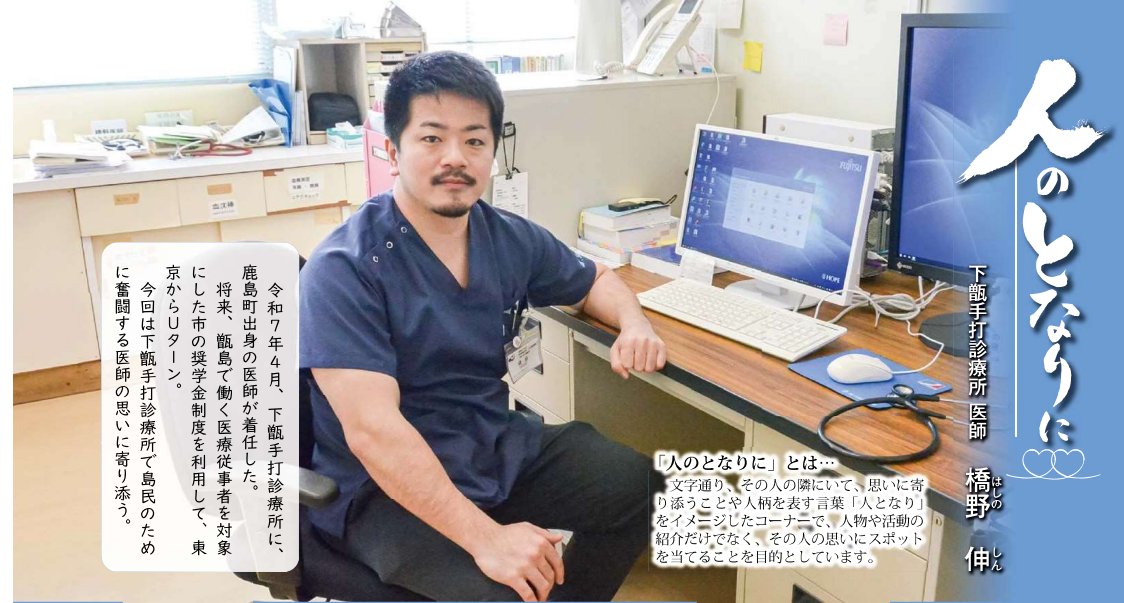


下甄手打診療所医師

橋野伸



「人のとなりに」とは…  
文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人ととなり」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てることを目的としています。

令和7年4月、下甄手打診療所に、  
鹿島町出身の医師が着任した。  
将来、甑島で働く医療従事者を対象  
にした市の奨学金制度を利用して、東  
京からUターン。  
今回は下甄手打診療所で島民のため  
に奮闘する医師の思いに寄り添う。

### 甑島の医療を支える仕事に

令和7年4月に、下甄手打診療所に着任した橋野医師。診療所での診療の他、出張診療を行うなど忙しい毎日を送っている。医師になるきっかけは、中学2年生の時の出来事だった。近所に住む小さい頃からかわいがってくれたおじさんが急病で倒れ、搬送先の病院で亡くなった。もう少し早く処置ができていれば助かった可能性もあると知り、甑島の人がたをを支える仕事が出来たいと医師を目指した。医師になるまでは勉強が大変だったと話す。勉強の他にも、部活や実習など多忙な学生生活を送っていたという。大学卒業後は、沖縄と東京の病院で研さんを積んだ。

### 甑島の医療の戦力に

橋野医師の専門は救急科。2年間の初期臨床研修では、さまざまな診療科を回り、経験を重ねる。その中でも、救急科を選んだ理由の1つには、「甑島の医療」があった。甑島には大きな病院がないので、島内で治療を完結する必要がある。救急科でも、患者さんの状態に合わせたすぐ処置を行わなければならない。

### 離島ならではの医療

下甄手打診療所に着任して丸1年。本市の病院と離島での診療の難しさは資源に限りがあることだという。離島の診療所では、医療従事者の人材確保や、使用できる医療器具に限りがある。大きな病院のように薬や医療器具などを次々と使用できないので、今できること、今あるもので、いかに効率よく使用できるかを考えながら診療している」と話す。一方で、「これまでに経験したことのない症例に向き合うこともあるが、先輩医師やこれまで出会った同僚にアドバイスをもらい、日々勉強になって楽しい」と言う。

### 甑島への思い

15歳で島立ちし、甑島を離れた。思い出は、海で遊んだこと、トシドンで泣いたことなど、日常生活の1場面だ。当時、甑島を離れる寂しさよりも、本土に行ける楽しさの方が強かったという。しかし、一度島を離れた今、橋野医師にとって甑島は「帰れる場所」になっていると話。 「行き詰まったとき、帰れる場所があるとと思うと頑張れた。これから島立ちする子どもたちもそれを忘れずに頑張ってもらいたい」とエールを送る。フットワーク軽く、気概のある医師になりたい」と橋野医師は地域の人々に寄り添った診療を続けていく。



## 令和8年第2回薩摩川内市議会定例会

# 施政方針の概要

令和8年2月17日開会の第2回市議会定例会において、田中良二市長が述べた市政に関する考え方や方針の概要を一部紹介いたします。  
なお、全文は市ホームページ上でも紹介しています。



▲市ホームページ

### 施策の概要

本市においては、引き続き、未来のまちの姿の実現を目指し、誰一人取り残さない、持続可能で、笑顔あふれる魅力的なまちづくりに力強く推進してまいります。行財政運営においては、社会変化が著しい中、市民ニーズを的確に把握し、限られた財源を有効に活用するため、既存事業については事業効果や成果を厳しく検証するなどの見直しを積極的に行うとともに、新規事業については、国などの財源を最大限に活用し、新たな施策の展開を図ってまいります。これらを踏まえ、令和8年度は、「子ども・子育て」、「高齢者の健康生きがいづくり」、「コミュニティ・市民活動」、「産業人材確保・移住定住」、「SDGs・カーボンニュートラル」、「DX(デジタル・トランスフォーメーション)」の6項目にポイントを押さき、予算の選択と集中を図りながら、新たな行政課題の解決に積極的に取り組んでまいります。

### 予算の大綱

令和8年度当初予算案においては、予算編成方針に基づき、第3次総合計画に基づく実施計画事

### おひび

令和8年度におきましても、本市の未来を創造し、市民の皆さまと共に、第3次総合計画に掲げる未来のまちの姿である「人が繋がり、人が輝く、安らぎと賑わいのまち 薩摩川内」の実現に向け、まい進してまいりますので、市民の皆さまのより一層のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 令和8年度の主な施策概要

- 1 子ども・子育て**
  - 安心し子どもを産み育てられる支援の充実
  - こども館でも通園制度を開始し、市が利用料の一部を負担
  - 小学校の給食費無償化と幼稚園、中学校の物価高騰に伴う食料費上昇分を助成
- 2 高齢者の健康生きがいづくり**
  - 高齢者自身が社会とのつながりを保ちながら生きがいを持つことで、誰もがあんしんと生活を続けられる地域づくりの実現
  - 日常の安否確認が容易にできる見守り機器の導入費用の一部を助成
  - 気軽に参加できる介護予防事業を市内全域で実施
- 3 コミュニティ・市民活動**
  - 地域社会の維持と活性化を図り、地域力の向上を促進
  - 熱中症予防のため、空調設備設置助成事業の対象を、全ての自治公民館に拡充
  - 地域活動の担い手不足に対応するため、地域外から参加・支援する人々と地域をつなぐ体制をさせたいスマイル応援隊事業により整備
- 4 産業人材確保・移住定住**
  - 就業および移住定住のさらなる促進
  - 既存の人材確保・移住定住施策を継続、情報発信の強化
- 5 SDGs・カーボンニュートラル**
  - 「サーキュラー都市・薩摩川内市」の実現に向けたシビックプラットフォームのさらなる醸成
  - SDGsの普及啓発と人材育成の継続
- 6 DX(デジタル・トランスフォーメーション)**
  - デジタル技術を活用した行政サービスの向上
  - 契約締結事務の迅速化を図るため、電子ファイアールに電子署名を付与する契約方式を導入
  - 災害時に情報を一元的に把握できる災害用備蓄管理システムを導入

※当初予算の詳細については、広報薩摩川内5月通常版でお知らせします。